



TITLE:

附属図書館における電算化 (IV) - 雑誌受入業務について -

AUTHOR(S):

CITATION:

附属図書館における電算化 (IV) - 雑誌受入業務について -. 静脩 1988, 24(4): 1-4

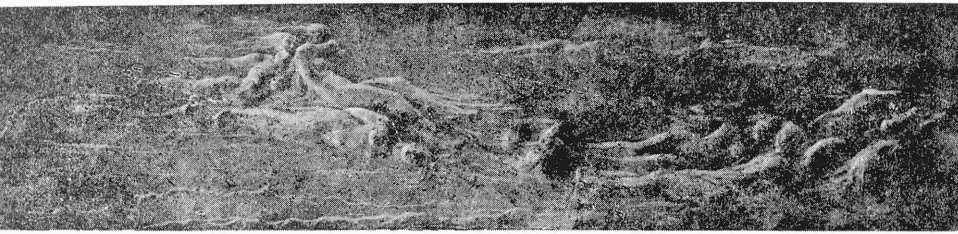
ISSUE DATE:

1988-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36997>

RIGHT:



静脩

1988年3月

Vol. 24, No. 4

The Kyoto University Library Bulletin

附属図書館における電算化（Ⅳ）

——雑誌受入れ業務について——

1. 雑誌受入システム開発状況

本号では、雑誌受入システムについて報告する。昭和59年度から始められた開発は、他のサブシステムと同様、富士通㈱製のILIS雑誌受入システムパッケージを採用し、それに修正を加えるという形で進められてきた。現在、システムはほぼ完成に近づき、一部は運用に入っている。しかし、まだ仕様の固まっていないところがあったり、すでに運用に入っている部分でも、他のシステムとの関係や、より一層の機能・操作性の向上のため仕様を変更せざるを得ないところもある。このため、ここでは現在のILIS雑誌受入システムの概要を簡単に紹介するにとどめ、システムの完成後また何らかの形で報告したい。

2. 雑誌業務システム化のねらい

雑誌業務システム化のねらいは、およそ次のようなものである。

1) 受付から製本に至るまでの各過程の処理

雑誌の処理過程とは、発注・受付・利用（未製本）・製本・利用（製本）といったものである。この他、雑誌に特有なものとして、誌名変遷等の処理もあり、図書に比べ処理過程が多く煩雑である。受付けた雑誌は、速やかに受付記録をとって配架されなければならない。しかも欠号が無いように、到着状況を管理しなければならない。さらに雑誌は散逸を防ぐため製本されるが、同一雑誌の複数冊をまとめて1冊にするという作業は所蔵タイトル数の多い当館では負担の大きい業務である。これら一つ一つの過程を効率良く処理できるよう工夫する必要がある。

2) 会計処理

雑誌の入手には書店等から購入する方法と、支払いを伴わない寄贈による方法とがある。さらに購入には、検収後に支払う後金払いと、外国雑誌に特有の前金払いとがある。大量のタイトル・冊数を、それぞれに応じて、迅速・適確に処理できる必要がある。

3) 利用者への所蔵情報提供

雑誌についての問い合わせでは、求める雑誌の所蔵の有無についてのものが最も多いが、そのほか何号

まで到着しているか、製本中ではないかなどの問い合わせもかなりある。これら最新の到着状況・処理状況を、利用者が検索できるようにしておく必要がある。とくに最新号の到着状況は、いち早く利用者に反映されなければならない。

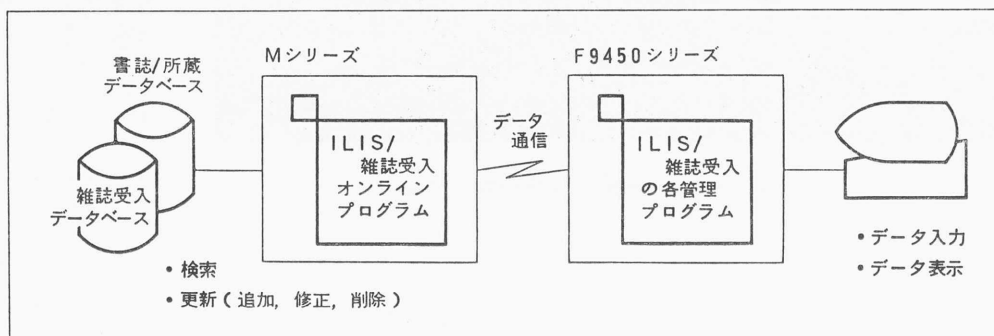


図 1. ILIS/雑誌受入れの動作形態

3. 機器構成

ILISは前号までの報告にもあるとおり、分散処理システムである。雑誌業務を担当している学術資料掛には富士通のパソコン9450Ⅱが2台配置されている。それぞれ30Mバイトのハードディスクを実装し、その中に日常の受付用ファイル等をもっている。受付処理などはホスト側と切り離してパソコンのみで処理される（スタンドアロン処理）。（図1）現在、1台を和雑誌、もう1台を洋雑誌にあてて運用している（逆にいえば、和雑誌は洋雑誌用の端末では処理できない）。これら2台はハードウェア上は構内回線を通じて館内のホストコンピュータFACOM M-340と接続しているが、必要なときのみホストと接続して処理を行い、業務によっては単独で機能することもある。ホスト側にも雑誌受入データベースがあり、これを近畿北部地区の6大学（現在は4大学）が共通に使用する。端末総てのデータを総合して管理される。さらに雑誌受入れシステムは、同じくホストにある目録データベース（書誌テーブル・所蔵テーブル・欠号テーブル・製本テーブル）とも関連付けられている。雑誌の受付・製本データは最終的には目録データベースに反映されることになる。

4. ILIS 雑誌受入システムの機能

ILISの機能を処理にそって紹介する。

1) 発注処理

新規に入手することになった雑誌は、まず発注処理を行う。ILISにおける発注処理とは、タイトル等を登録することである。（図2）購入では発注業者名・支払い方法などの会計データを、寄贈の場合には寄贈者名なども登録する。発注処理はオンラインで行われ、すでに同じタイトルが雑誌受入データベースにあるときは同じ番号が、新しいタイトルのときにはシステムにより雑誌ごとにユニークな番号が与えられ、ホストの雑誌受入データベースに登録される。同時に端末にもデータが登録され、受付が出来る状態になる。

2) 受付処理

受付処理とは、到着した雑誌1冊ごとのデータを登録することである。登録するデータは巻・号・発行年・価格等である。キー入力の手間を減らすため、前回受付けたデータをもとに、今回受付ける巻・号の予想値（デフォルト値）を表示させ、担当者は必要箇所のみ修正して登録すればよい。（図3）欠号があ

誌名	Thin Solid Films	刊期	SM
(発行者)	Elsevier Sequoia	発行地	SZ

1. 目録種別 : Y (W:和, Y:洋)
2. 雑誌番号 : T0012200 [通番 01]
3. ISSN : 0040-6090
4. CODEN :
5. 資料種別 :
6. 呼出キー : THISF

7. 部局コード : LIB 附属図書館
8. 所蔵番号 : T0012200 - 01
9. 請求記号 :
10. 配架記号 :
11. 新刊展示 : Y (Y:要, N:不要)
12. 受入区分 : 50 購入
13. 受付記録 : Y (Y:要, N:不要)
14. 保存区分 : X 保存
15. 部数 : 1
16. 備考 (1) :

17. 予算コード : 9050 外雑センター
18. 業者コード :
19. 業者情報 :
20. 支払区分 : 222 後金払・到着
21. 輸送区分 : 0 船便
22. 通貨種別 : SZF スイス
23. 原価格 : 3190 (446800 円)
24. 契約価格 : 円
25. 予定巻号 : Vol.155-165
26. 予定冊数 :
27. 管理換 : N(Y:要, N:不要)
28. 支払対象 : Y(Y:有, N:無)
29. 索引 : N(Y:有, N:無) (購入条件)

登録 配布 次誌 終了

図 2. 発注画面

った場合は欠号というデータを登録しておく。これにより、欠号督促リストが出力できる。コンテンツサービスを行っている雑誌については、あらかじめ登録しておいた配布先が受付時に表示される。

3) 受付記録送信処理

端末側で処理した受付データをホストへ一括して送信する処理である。データは受付データベースに書き込まれると同時に、目録データベースの所蔵・欠号テーブルも更新される。現在、運用では、前日受付けたデータを毎朝ホストに送信し、常に最新の受付状況が検索できるようにしている。

4) 支払い処理

ここでの支払い処理とは、購入雑誌のうちの後金払いの処理である。後金払いでは受付けた雑誌を業者ごとにまとめて支払う。この支払をする単位をブロックと呼んでいる。ブロックの作成は雑誌1冊ごとにオペレータが指示する方法と、業者・受付日付等の条件を指定して一括して行わせる方法とが用意されている。最終的には図書と同じく供用命令書の明細を印刷することにより、機械上の支払い処理が完了する。なお現在開発中の予算システムが稼働すれば、予算管理も併せて行えるようになる。

5) 精算処理

精算処理とは、前金払外国雑誌の会計処理のことである。契約した分がすべて納入された雑誌については精算処理、前金契約したものの入手できなかったものが出た場合は解約・戻入処理を行う。処理は、1点ずつ画面に呼び出し必要な指示を与える。

6) 製本処理

製本にかかる一連の処理をおこなうものである。まず雑誌の受付データを画面に呼び出し、どれをまとめて1冊にするかを指示する。同時に製本を依頼する業者名・製本仕様なども登録し、製本発注書を作成する。製本終了後、備品として登録するために登録番号を入力し、データをホストの図書IPFに送る。データは目録データベースの製本テーブルにも送られ、目録検索により製本後の1冊単位の情報が把握できるようになる。また登録したものについては端末から受付データを消去することができる。これにより、一連の処理が完結することになる。なお、製本処理システムはほぼ完成しているが、運用には至っていない。

